# まちの史跡めぐり 149

町文化財専門委員　石瀧　豊美

## 来年のNHK大河ドラマ「軍師　官兵衛」Ⅱ

福岡藩主黒田家歴代の諱（本名）の付け方は、九代までは「～隆」、「～高」、「～政」、「～之」が基本のパターンです。諱二文字の上の字は、義朝、義経のように父から受け継ぐのが普通ですが、自分が仕える上級者から許可を受けると、そちらに変更します。これを「片諱（偏諱）を賜る」と言います。

逆に言えば、許可を受けない限り、同じ字は用いることができません。「隆・高」が混用されるのは、上級者の一族がすでに「隆」を用いているので、「隆」を避けて同音の「高」を使ったというような事情が想定できます（「避諱」・「嫌諱」などと言います）。同音を用いれば字が違っていても、同一人物だと理解してもらえる利便があります。幕末から明治にかけての須恵の眼科医岡正節が後に松節と名乗るのも、「正」の字を避けながら、「しょうせつ」という読みは同じにするという工夫なのでしょう。

黒田家の諱を見ていると興味深いことに気付きます。以下の連鎖が浮かびあがるのです。

> 将軍足利**義晴**―播磨守護赤松**晴政**―御着城主小寺**政職**―姫路城代黒田**職隆**

上位者の二文字の下の字が下位者の上の字となります。見事な法則性です。ただ松浦姓、渡辺姓の場合は諱が一文字なので、このような法則が当てはまりません。明治十年頃に福岡県知事を務めた渡辺清、その弟の渡辺昇などがその例です。

「職」は御着城主小寺政職の下の字「職」を自分の上の字に用いています。連鎖の構造というほかはありません。

これに気付くと、諱を見ることで、その時々、誰の指揮を受けたかがわかります。

諱が一生の間にいくつも変わるのにも事情があります。二代藩主忠之は初め忠長と名乗っていましたが、家光の弟・忠長（駿河大納言）と同じなので忠政（これも姫路城主本多忠政がいました）、次いで忠之と改名します。忠之は秀忠、光之は家光、綱之・綱政は家綱、宣政は家宣、継高は家継、治之・治高は家治、斉隆・斉清・斉溥は家斉、慶賛は家慶からそれぞれ「偏諱」を受けています。将軍と謁見し、大名家の跡取り（世子）として認められたことを意味します。秀忠・家光・家綱・家宣・家継・家治・家斉・家慶は徳川家歴代の将軍です。

浅井長政も義兄織田信長の「長」に由来します。では黒田**長政**は？　すみません。まだ力不足でアイデアを持ち合わせていません。ご存じの方は教えていただきたいものです。長政の誕生は一五六八年。信長の死は一五八二年。この時長政は数えの十五歳。元服して幼名（松寿…幼名は元気に育つように、縁起のいい名前を付けます）を捨て、諱を名乗っていい条件が整っています。やはり信長の「長」に由来するのでしょうか。本能寺の変より前に「長政」と名乗っていることがわかれば、信長から許可を受けたと断定できます。

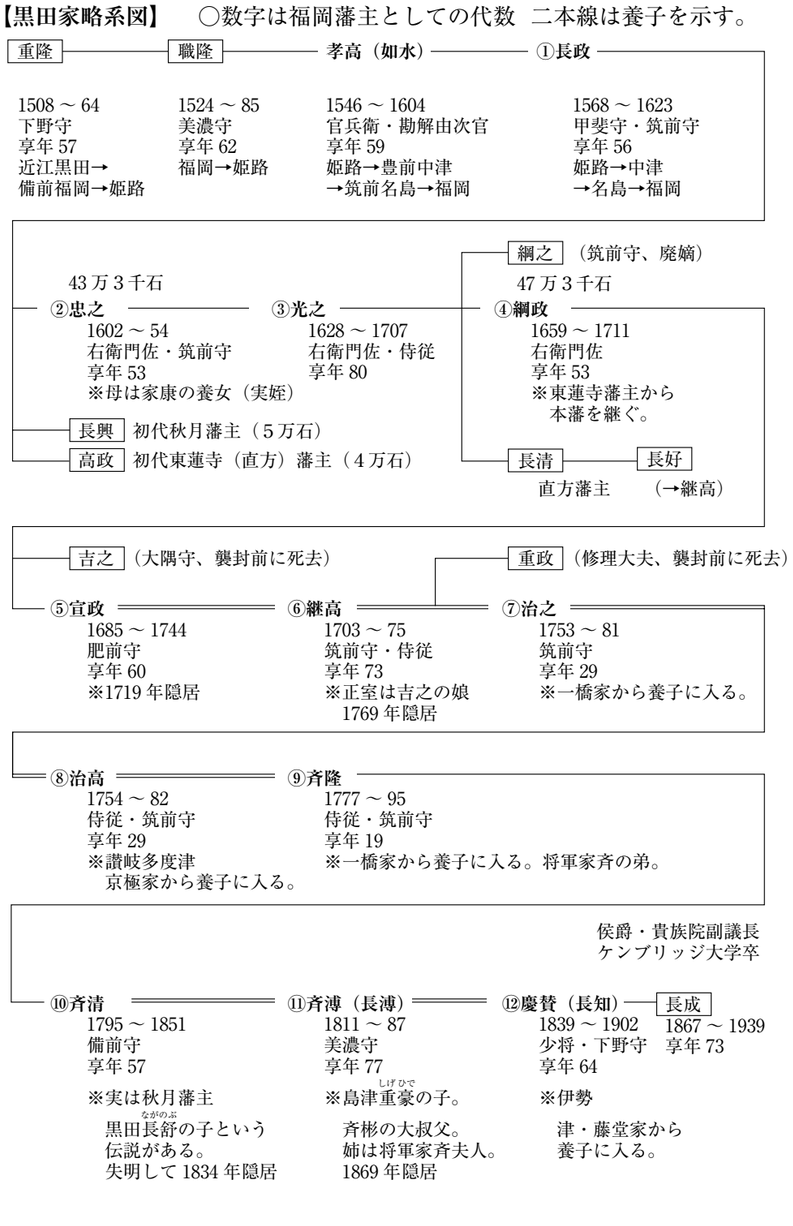
「軍師　官兵衛」の官兵衛は黒田孝高の通称です。諱・孝高は本人が署名する時の名前で、親と先生以外は通称で呼ばねばなりません。西郷吉之助隆盛では吉之助が通称、隆盛が諱です。坂本龍馬直柔は龍馬が通称、直柔が諱です。回りの人は「龍馬！」と呼んでいるので、私たちは諱を意識することがなかったわけです。諱は必ず訓で読みます。

任官して官職を名乗ることを認められると、通称から官職に移行します。系図の「勘解由次官」がそれに当たります。

秀吉の書簡に「小くわん」とあるのは、官兵衛が主君から小寺姓を名乗ることを許されていたので、**小寺官**兵衛を省略して「小官」と表現したもの。こうした省略形はしばしば見かけます。俳優嵐寛寿郎が「あらかん」と呼ばれたのに似ています。

同じく「くわんひやう」（福岡市博物館で展示していた、秀吉が官兵衛に宛てた手紙の宛名）とあるのは、官兵衛は正確には「かんひょうえ」と読むのですが、秀吉は官兵衛と親しいがゆえに、あえて短く「かんひょう」と表現したと考えられます。「～べえ」という読みは高位の武士にはふさわしくないものですが、私もつい「かんべえ」と言ってしまいます。「～ひょうえ」と「～べえ」を使い分けるのは難しいですが、武士の場合は「～べえ」とは呼ばれなかったものと思われます。

第七代藩主治之は継高の養子となる際、継高の長子・重政の娘「やよ」を正室として迎えることになっていましたが、「やよ」が十一歳で死去し、結婚には至りませんでした。そのため、黒田官兵衛（如水）以来の血筋は継高で途絶えることになりました。

なお十二代藩主慶賛を「よしすけ」と読むのは、賛助会員でわかるように、「賛」には助けるという意味があり、「すけ」と読めるからです。実際、この時は同音の「すけ」を避けるようにというお触れが出ていて、庶民は改名せざるを得なくなりました。そのことから逆に「賛」を「すけ」と読んだことが明らかになりました。

**【黒田家略系図】**　○数字は福岡藩主としての代数　二本線は養子を示す。